

第 3 8 5 回白石市議会定例会 一般質問通告書

順位	質 問 者	質 問 事 項 ・ 要 旨	答 弁 を 求 め る 者
1	1 番 沼 倉 昭 仁	<p>1 「地域医療再生計画」と「特別繰り入れ」について</p> <p>昨年の12月議会で私が一般質問した答弁のなかで、市長は、今回の県の「地域医療再生計画」は、県南に同じような病院が2つあるため、再編ネットワーク化するものであり、それにより、お互いに補完し合いながら地域住民の安全を確保する、両病院はそれぞれの役割があり、「中核病院」との「機能分化」の中身については、今後、検討・協議してゆくと、答弁した。</p> <p>この「計画」では、仙南医療圏については、「中核病院」が「基幹病院」に、「刈田病院」は「中核病院」のいわば「支援病院的な位置づけ」となっている。</p> <p>この「枠組」に関して、大河原町長との「協議」の余地などない、そのような「協議の場」もないのが現実なのではないのか。そうではなく、国の予算を受ける前提としては、「刈田病院」が、これまでの「中核病院」と同等・同質の「ツインホスピタル」のような概念ではなく、厳しい言葉を使えば、「中核病院」との間での「センターとサテライトという序列化」を受け入れるということなのではないのか。</p> <p>この重大な「方針転換」を、風間市長は、なぜ市民に「説明」しないのか。</p> <p>「特別繰り入れ」は、本来、よほどの事情と効率的経営が担保されない限り入れるべきではないものである。</p> <p>この状況で「特別繰り入れ」をお願いする白石市民に、刈田病院のこの重大な方向転換について、市民が納得のいく正確な情報の公開と「特別繰り入れ」を可能とする根拠は何か、医療行政上の展望は何かについて、説明をきちんとしなければならぬのではないのか、市長の所見を伺う。</p>	市 長
2	4 番 吉 田 貞 子	<p>1 子どもを大切にする施策展開について</p> <p>(1) 子どもの育ちの現状をどのように把握しているか</p> <p>(2) ひとり親家庭への支援、虐待への対応、保育ニーズ対応の今後の方策について</p> <p>(3) 子ども支援の総合的施策展開について</p> <p>(4) おとなが抱える問題が子どもへとつながることから、女性に対する暴力を根絶する施策展開について</p>	市 長 教 育 長
3	9 番 佐久間 儀 郎	<p>1 地上デジタル放送への対応について</p> <p>平成23年7月24日をもって現在のアナログ放送から地上デジタル放送へ全面移行し、アナログ放送は見られなくなります。テレビ視聴、情報入手の不公平さを解消すべく、本市は総務省、NHKなどと連携して調査と対策を十分に検討してきていると思いますが、完全移行期日が迫ってきているなか、テレビの難視聴地域等への支援の現況を伺います。</p>	市 長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
5	3番 水落孝子	<p>(1) 今までと違う新たな勤め方はなにか？</p> <p>(2) リフォーム助成制度の創設について提案します。 山形の庄内での場合、その内容は工事費の5%・上限50万円で、波及効果は、約30倍にもなると鶴岡商工会長が述べています。接続家屋の促進とともに、市内の工事業者の仕事おこしにもなるものです。さらに、下水道のみに限定せず、近い将来起こると予想されている宮城県沖地震対策を積極的に対応して行こうという取り組みをしている自治体もあることから、そうした市民の取り組みに応援することにもなると考えます。所見をお伺いします。</p> <p>3 新しい統合高校の発足にあたり白石市としてできることはなにか 長い歴史と伝統を持ち、白石市民に愛されてきた白石高校と白石女子高が統合され、新しい高校として校舎新築も順調に進み、4月1日から開校されることになりました。学校は、地域住民に支えられて伸びるとも言われています。新しい高校を祝福し、通学することがうれしいと感じていただけることは、白石市にとっても、市民にとっても、大変うれしいことではないかと思えます。県立高校ですから県のやることではありますが、市の施設利用や、通学がうれしい環境にしていくなど、なにかお考えになっていることがあれば、お示し下さい。</p>	市長
6	2番 管野恭子	<p>1 子宮頸がん予防ワクチン接種への助成について 昨年10月承認、同年12月発売と、日本においてもようやく子宮頸がん予防ワクチン接種がスタート。このがんは、日本で年間約15,000人が発症、約3,500人が死亡と推計、低年齢化している現状であるが、検診と予防ワクチンでほぼ100%防げるものである。しかし接種費用1回1万超との高額の上、3回接種を必要とする。接種の困難性が高い事が予想される。白石の大事な女性の健康を守る為、是非、助成を行うべきと考えるが見解を伺う。</p> <p>2 ひとり親家庭へのサポートについて 諸事情から、父子、母子等のひとり親家庭が増加している今日、何等かの理由で育児、家事等が一時的に困難になった場合に“子育て支援”の視点からもサポートできる制度を設置すべきと考えるが見解を伺う。</p> <p>3 人工透析治療の方々への通院支援について 週3回と高い頻度で通院する標記の方々への経済的負担軽減の為に従前のに加えて何等かの支援を行うべきと考えるが見解を伺う。</p>	市長 市長 市長
7	7番 山田裕一	<p>1 平成22年度施政方針について</p> <p>(1) 市長は平成22年度施政方針の中で、「事業の見直しや経費の削減など一層の聖域なき行財政改革に取り組み、健全な行財政運営に務め、効率的で持続可能な質の高い行政サービスの実現を目指してい</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
7	7番 山田裕一	<p>なくてはならない。」と宣言された。そこで、持続可能な質の高い行政サービスとはどのようなサービスを指すのかお示しいただきたい。</p> <p>(2) 平成22年度施政方針の最重要課題に企業誘致を掲げられた。企業誘致には、民間情報も欠かせないと思われる。私は、平成20年9月議会一般質問で北海道北見市を例に挙げ、民間企業の情報により企業誘致が成功した場合に成功報酬として報奨金を支払う制度を紹介した。企業誘致は情報戦であると思われるがこういった制度を設けてはどうか。また、当市ホームページには、「空き家・空き店舗情報」があるが充実しているとは思われない。市内の不動産業者の連絡先を掲載したりなどさらに充実した官民の協力体制が必要と思われるが市長の所見を伺う。</p> <p>(3) 高齢者支援について 核家族化と超高齢者社会の進行により高齢者だけの世帯や独居老人世帯が急速に増えている。地域で高齢者を支える必要性が今後ますます重要であると思われる。そうした中で認知症の問題が深刻になってきており市民への認知症の正しい知識の啓発や地域ケア体制の整備をどのように進められるのか具体的にお示しいただきたい。</p> <p>2 中学校教育の未来像について 少子化問題が大きな社会問題として当市もその影響をまともに受けている。 当市の中学校新一年生生徒数の推移を見ると、平成14年度は、416名。これに対して平成24年度では、303名(転入・転出なければ)になるとのデータがある。つまりこの10年間で110名強の新一年生が減少していることになる。中学校生活は義務教育後半の3年間であり、学力向上はもとより、心身の成長、豊かな人格形成に非常に重要な時期であることは言うまでもない。そのような中学校教育の中で部活動は大変重要な位置付けであると思われる。 現在の各中学校の部活動の種類をしてみると、生徒数の多い中学校は選択の幅が広いが、生徒数の少ない中学校は、当然、選択の幅が限られてくる。今後さらに少子化が進行していけば、この状況がさらに悪化し、部活動が困難になることさえ考えられるが、市長の長期的なビジョンがあればお考えをお示しいただきたい。</p>	市長 教育長
8	17番 大町栄信	<p>1 工業団地造成と企業誘致について 22年度最重要課題として取り組む具体的方向。 23年3月完成予定である企業誘致の見通しについて。</p> <p>2 地域医療の確立について 公立刈田病院の情報提供を市民に伝える方法についての考え。 公立刈田病院の健全運営についてどのように考えているか。</p>	市長

